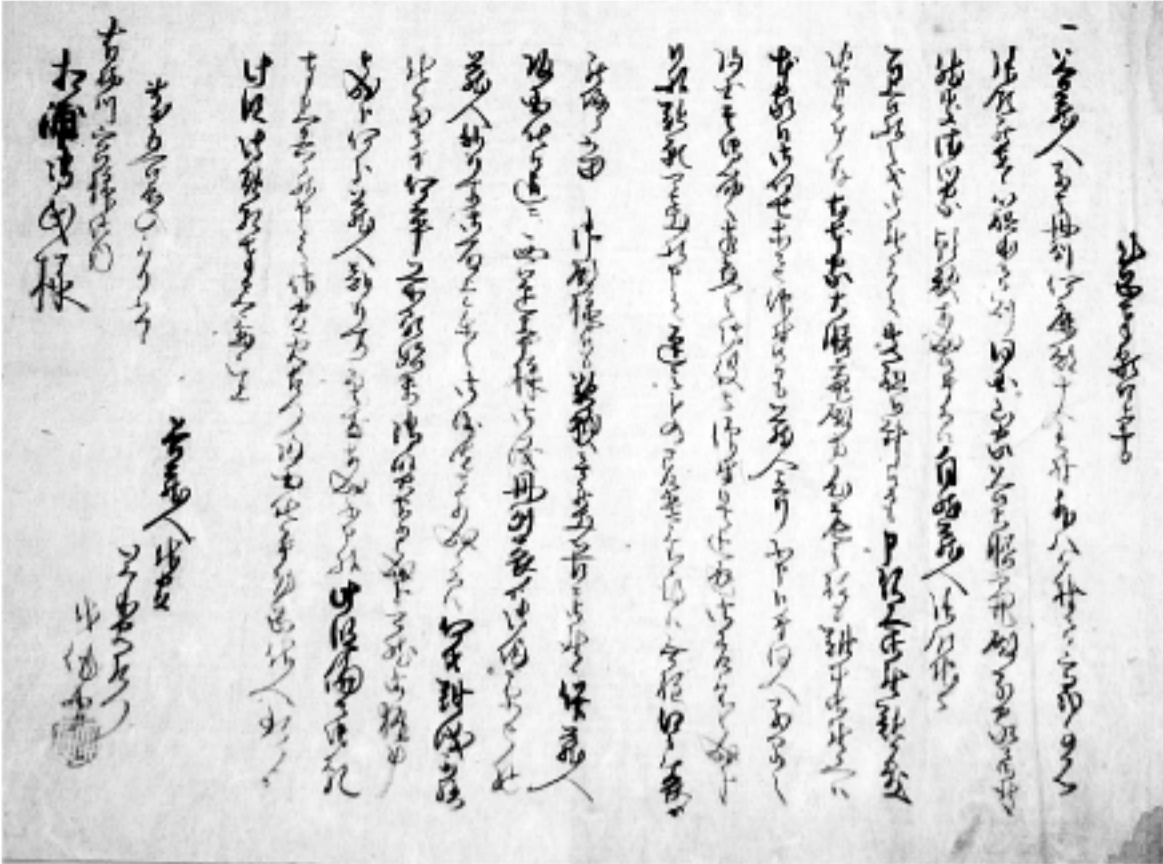


最後の代官

⑩

忠左衛門日記



作助が忠左衛門の代理として有栖川宮家の家来にあてた嘆願書

戊辰戦争（1868）度か源右衛門と会って新政府に関する情報を入手に忠左衛門が、つてを頼って知り合った新政府の権力者に贈り物をするなどして「本領安堵」を得たことは既に紹介したが、忠左衛門はこの権力

度か源右衛門と会って新政府に関する情報を入手に忠左衛門が、つてを頼って知り合った新政府の権力者に贈り物をするなどして「本領安堵」を得たことは既に紹介したが、忠左衛門はこの権力

また、十倉谷領内の里村（現在の里町）にいた作助という人物は、理由あるなど、良好な関係が出来上がっていたよう

下旬に有栖川宮が大坂に出向く際には、作助を含め4人をお供として至急、京都へよこすよう宮侍から十倉陣屋に依頼があるなど、良好な関係が

伏見の戦いでは軍事総裁として新政府軍の指揮を執る。

そのため、鳥羽・伏見の戦いが始まった日には同寺から丹波国の末寺10カ寺に万一場合は仁和寺を頼るよう通達があったという。

これも、忠左衛門が新政府とつながる有力なルートだったようだ。

有栖川宮家と良好な関係築く

新政府との多角的なルート確保に奔走

者たちとつながりを持つために様々な手段を用いていた。

まず、園部藩領だった西之保（現在の西坂町）の役人・源右衛門。園部藩は新政府側で京都市内の警備を任されていたこともあり、忠左衛門は何

有栖川宮家に出入りを許されていた。そのため作助は明治元年3月5日、た十倉中町の観音堂の本山は京都の仁和寺だったのだが、同寺の門跡（皇室の流れをくむ住職）だった純仁は復職して名前を嘉彰（のちの小松宮彰仁親王）にし、鳥羽・

このほか、かつては「禅定院」と呼ばれていた園部藩主を訪問。8日には有栖川宮へのお目見えも許されるなどし、無事に本領安堵を得ることになる。

（岡田圭司記者）